

# 地域の現状及び将来見通し

荒尾市地域公共交通活性化協議会

平成29年10月13日

# 目次

## 1. 地域の現状

- 地勢 ……2ページ
- 人口推移、人口構成 ……3ページ
- 人口分布 ……4ページ
- 高齢化の状況 ……5ページ
- 通勤・通学動向 ……6ページ
- 観光客来訪状況 ……7ページ

## 2. 公共交通の概況

- 公共交通の運行状況・利用状況 ……8ページ
- 路線バスの路線ごとの利用状況 ……9ページ
- 公共交通アクセス環境 ……10ページ
- 公共交通に対する財政負担状況 ……11ページ

## 3. 公共交通に関するこれまでの取組み

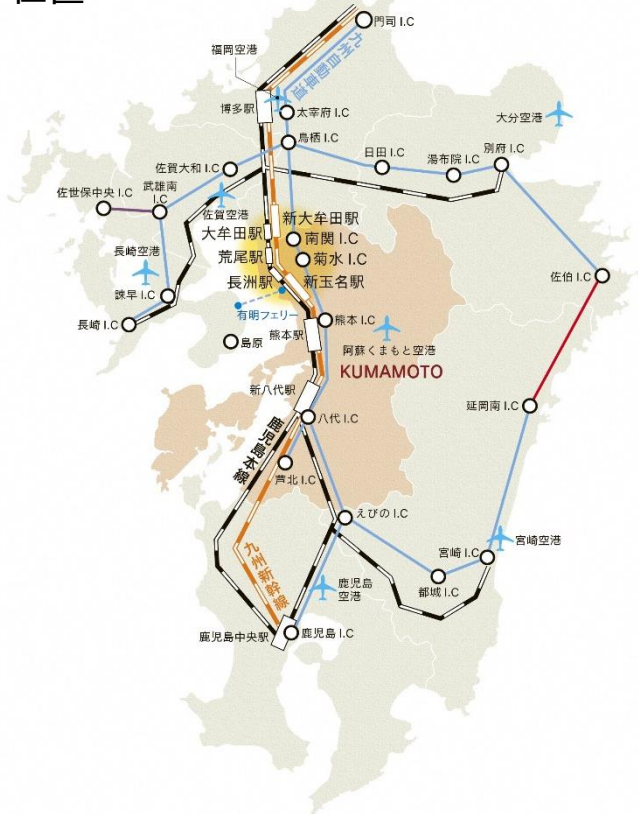
- 荒尾市地域公共交通総合連携計画に基づき実施した施策の実施状況 ……12ページ
- まちづくりの方向性(荒尾市立地適正化計画) ……15ページ

# 1. 地域の現状（1）

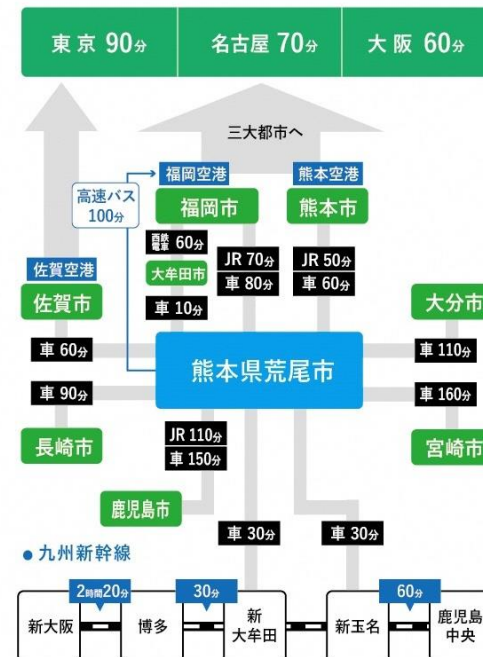
## 地勢

- 熊本県の北西部に位置する本市は、大牟田市、玉名市、長洲町、南関町と隣接する。
- 広域的な公共交通機関としてJR鹿児島本線、高速バスが運行されており、熊本市まで約50分、福岡市まで約70分でアクセス可能な環境にある。

### ■ 荒尾市の位置



### ■ 各都市へのアクセス

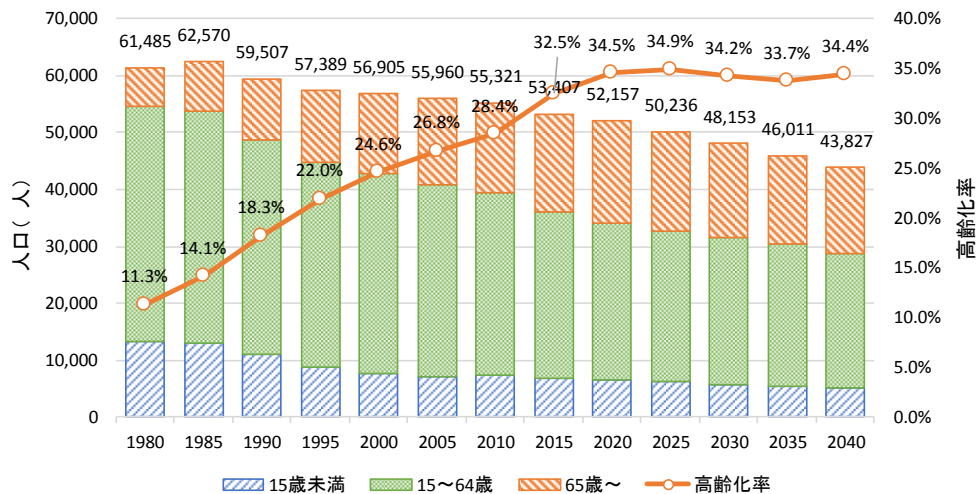


# 1. 地域の現状（2）

## 人口推移、人口構成

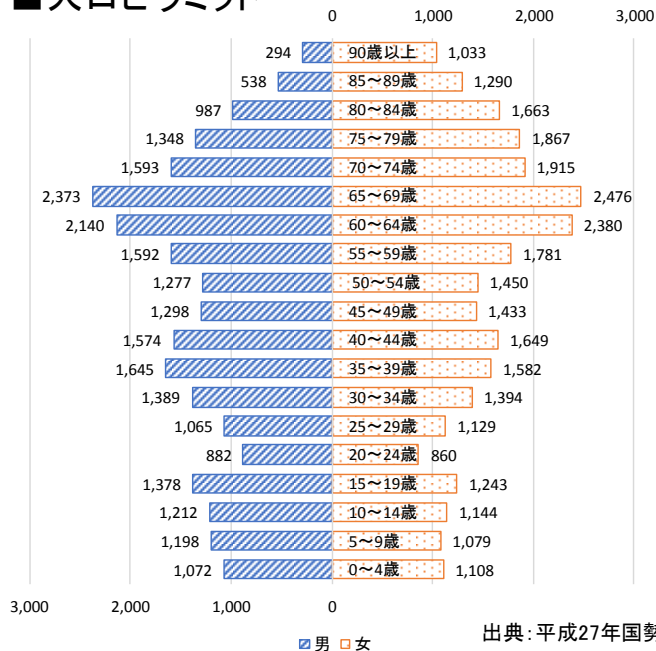
- 本市の人口は、炭鉱で栄えた1950年（昭和25年）の68,976人をピークに一時減少したが、ベッドタウン化と企業進出により1985年（昭和60年）に62,570人まで回復しており、それ以降は、人口減少と高齢化が進行し、2015年（平成27年）の人口は53,407人で高齢化率は32.6%と、3人に1人が高齢者という状況になっている。
- 今後2040年までの推計値では、高齢化率は概ね現状を維持するものの、人口は約1万人減少することが予想されている。
- 5歳階級別には65～69歳の人口が最も多く、今後、70歳以上の高齢者の急増が予想される。

■ 人口推移



出典：2015年まで国勢調査、以降、国立社会保障・人口問題研究所推計

■ 人口ピラミッド



出典：平成27年国勢調査

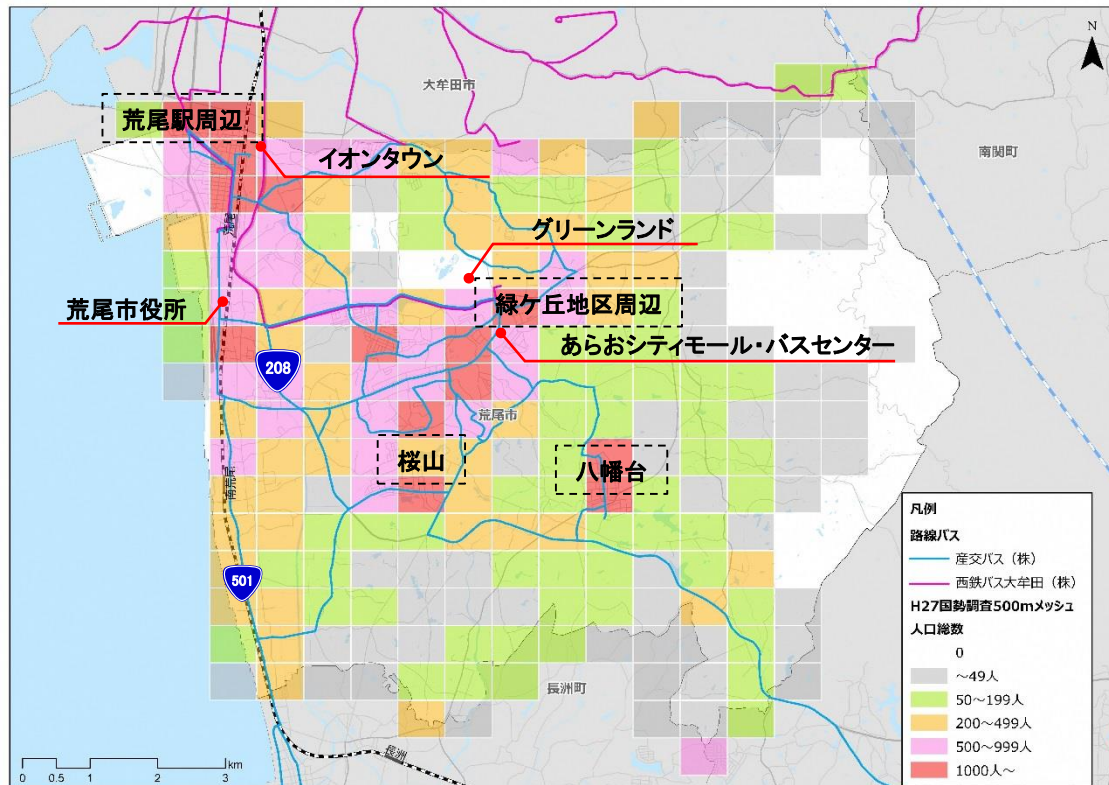
# 1. 地域の現状（3）

## 人口分布

- 2つの中心拠点（荒尾駅周辺、緑ヶ丘地区周辺）及び大規模住宅団地（八幡台、桜山）に人口が集積している。
- 国道208号、国道501号等の幹線道路沿いにもやや人口が集積している。
- 平井地区・府本地区など市の東部・山間部では人口密度が低い。

### ■人口分布状況

出典：平成27年国勢調査



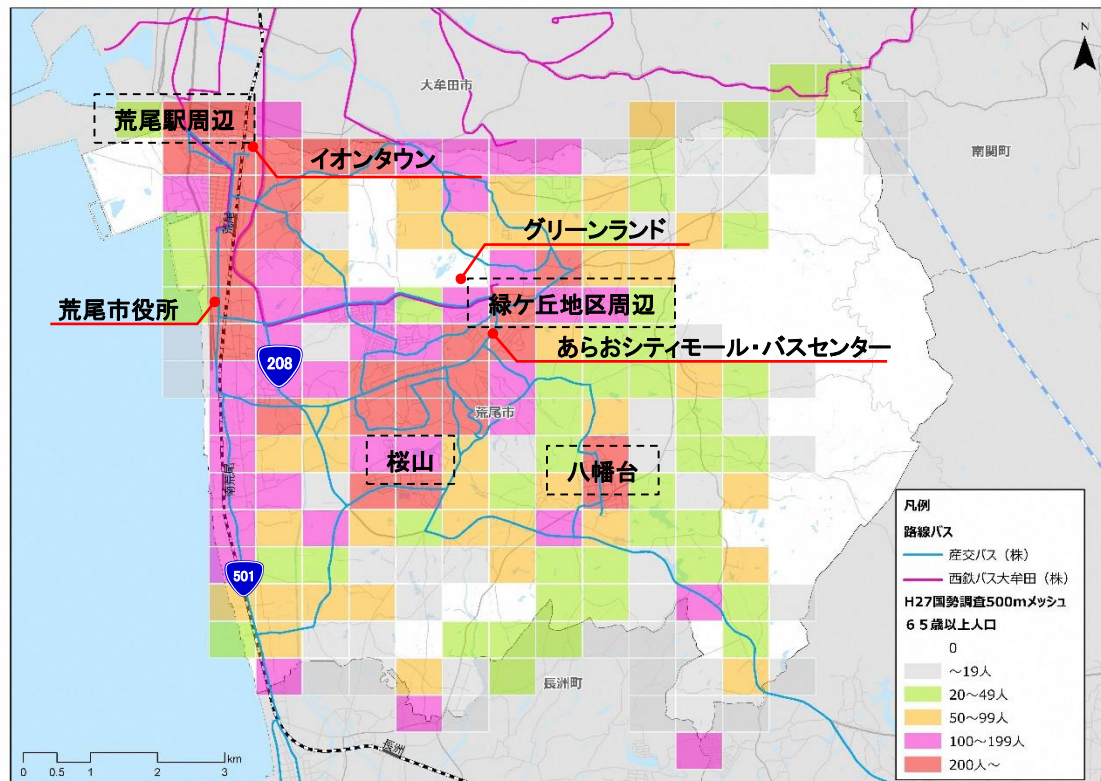
# 1. 地域の現状（4）

## 高齢化の状況

- 人口集積のある中心拠点・大規模住宅団地で高齢者人口も集中しており、荒尾駅周辺や、緑ヶ丘地区周辺から桜山地区にかけての地域は、広範囲に高齢者の多い地域が広がっている。
- 八幡地区では、周囲と比較して特に住宅団地において高齢者数が集中している。

■ 高齢者数分布

出典：平成27年国勢調査



# 1. 地域の現状（5）

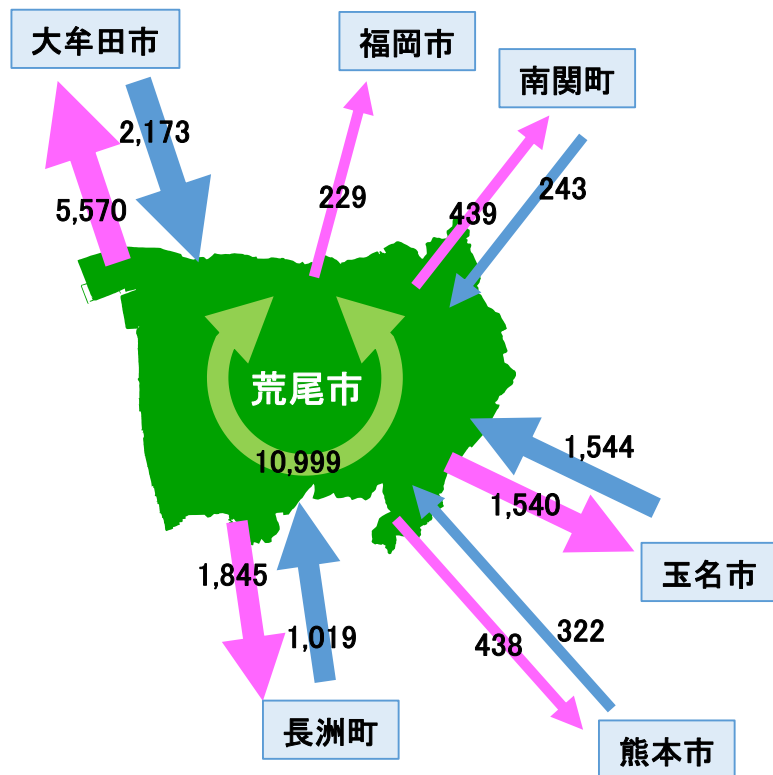
## 通勤・通学動向

- 通勤流動は、大牟田市、玉名市、長洲町との結びつきが強く、それぞれ1日に1,000人以上が行き来している。特に、本市から大牟田市への通勤者は5,000人を超えている。
- 通学流動は、本市から大牟田市、玉名市への通学が1日に500人を超えている。本市への通学が多いのは大牟田市、玉名市となっている。

### ■本市と周辺市町との通勤流動

※200人以上の流動のみ表示

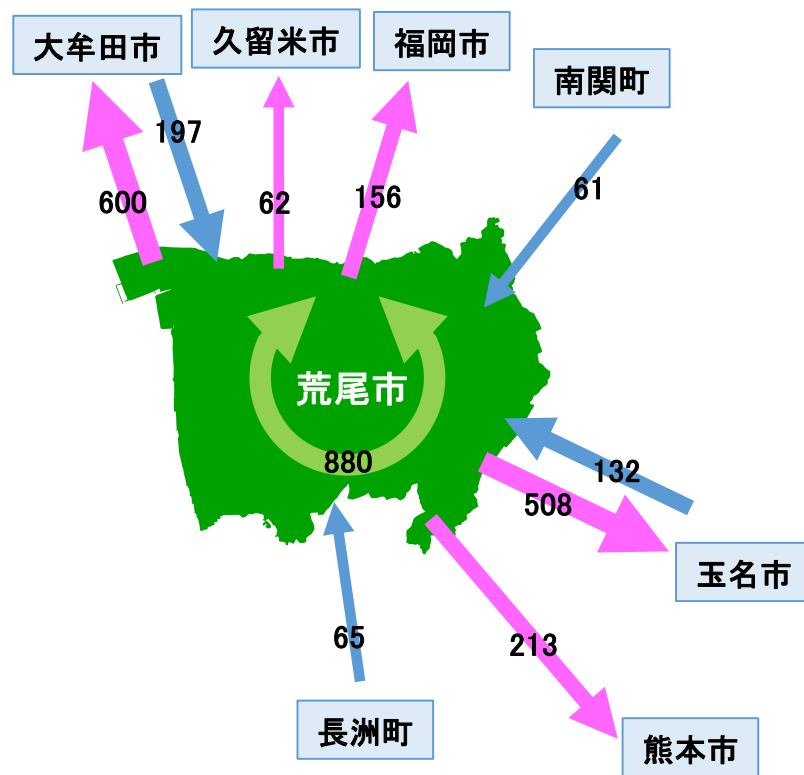
出典：平成27年国勢調査



### ■本市と周辺市町との通学流動

※50人以上の流動のみ表示

出典：平成27年国勢調査

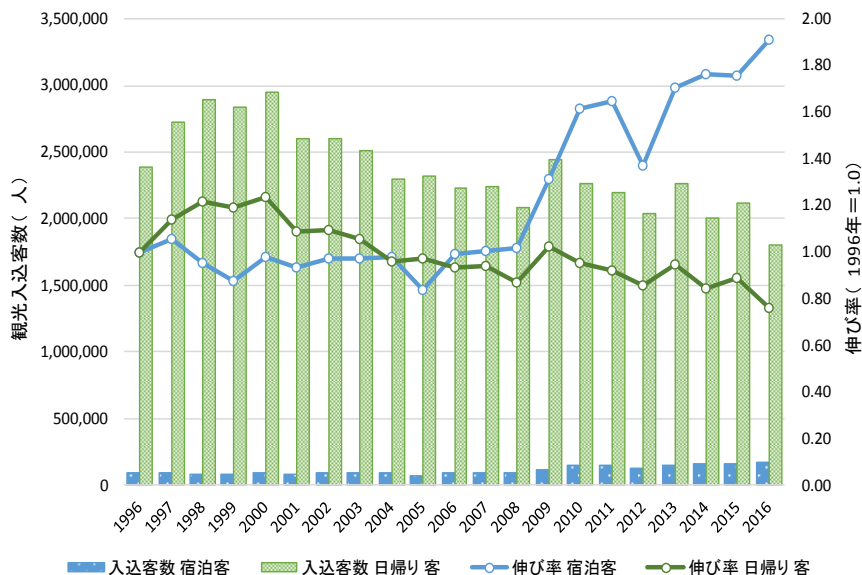


# 1. 地域の現状（6）

## 観光客来訪状況

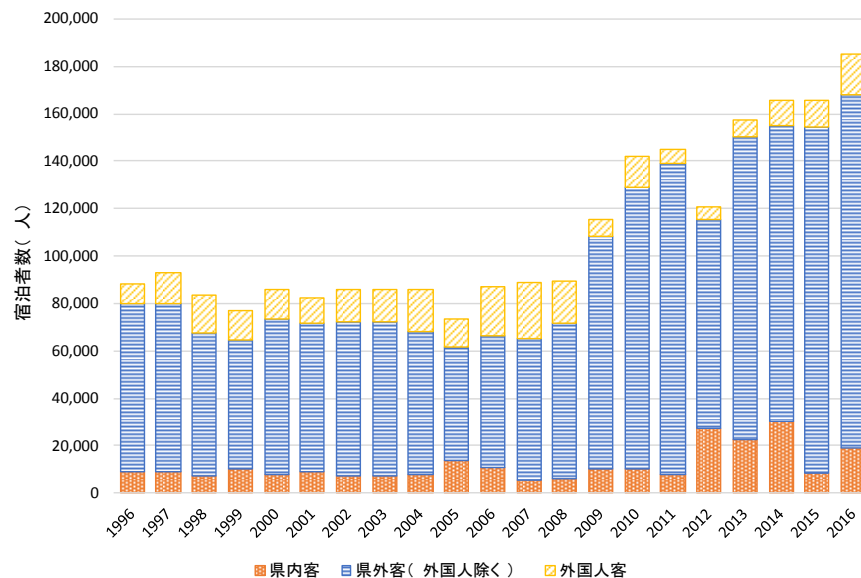
- 本市を訪れる観光客の約9割は日帰り客であり、近年、日帰り客は減少傾向にある。
- 一方、宿泊者数は、宿泊施設の開業や、東日本大震災に伴う修学旅行の行き先変更等により、2011年（平成23年）にかけて急増した。
- 宿泊者数は、2012年（平成24年）に一旦減少したものの、県内客を中心に来訪者数が増加し、2016年（平成28年）の宿泊者数は20年前（1996年）の約2倍に達した。

### ■ 観光入込客数推移



出典：荒尾市産業振興課

### ■ 宿泊者数の内訳



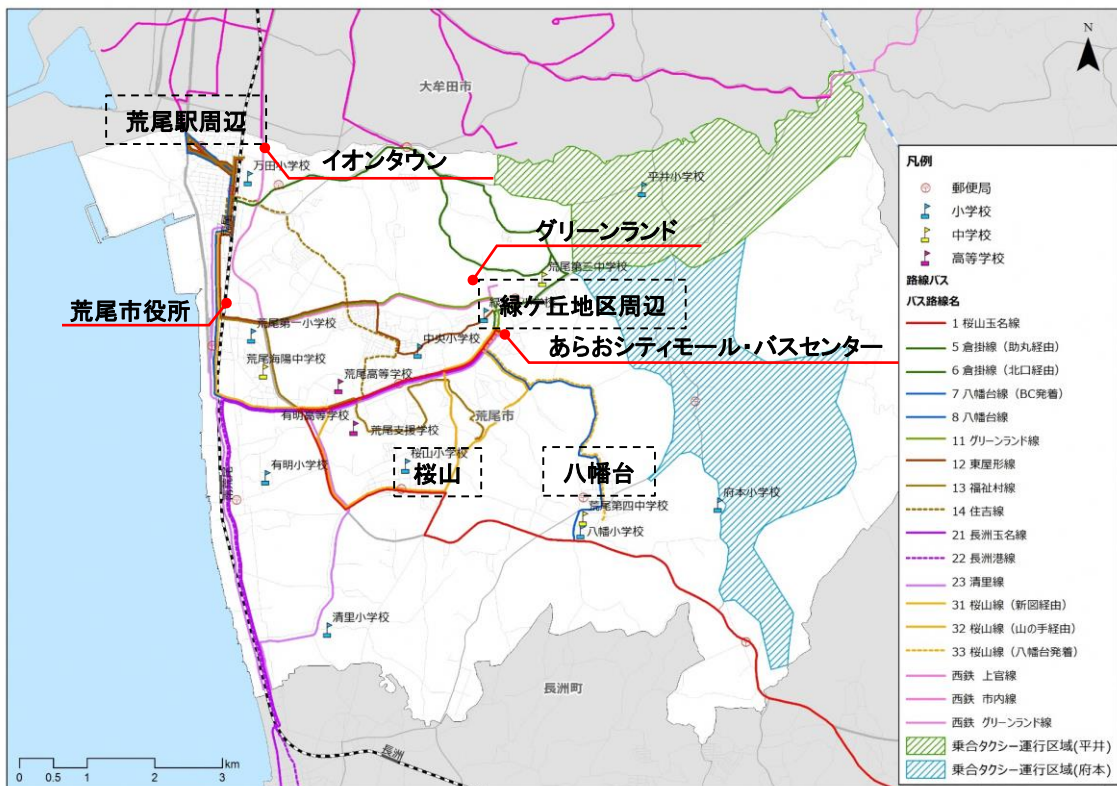
出典：荒尾市産業振興課



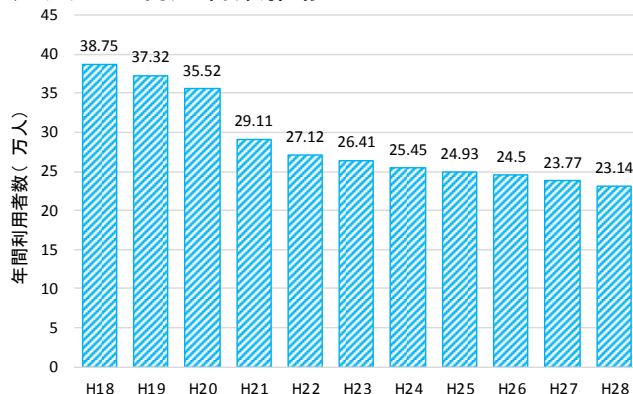
# 2. 公共交通の概況（1）

## 公共交通の運行状況・利用状況

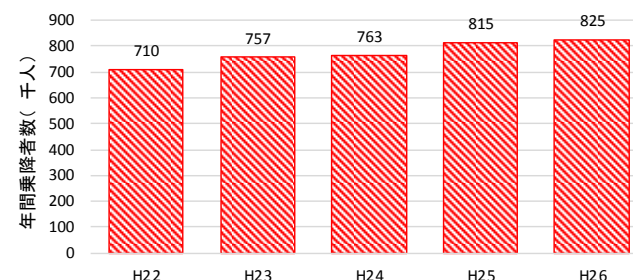
- 市内には、広域を連絡する鉄道（JR鹿児島本線）や高速バス（西鉄バス大牟田株）、市内や隣接市町を連絡する路線バス（産交バス株、西鉄バス大牟田株）、平井地区・府本地区内とあらおシティモールを連絡する乗合タクシーが運行している。
- 産交バスの利用者数は年々減少しており、平成28年度の利用者数は年間約23万人であった。
- JR荒尾駅の利用者数は平成23年度から増加傾向にあり、平成26年度の利用者数は年間約82万5千人（約2,260人/日）であった。



■ 産交バス利用者数推移



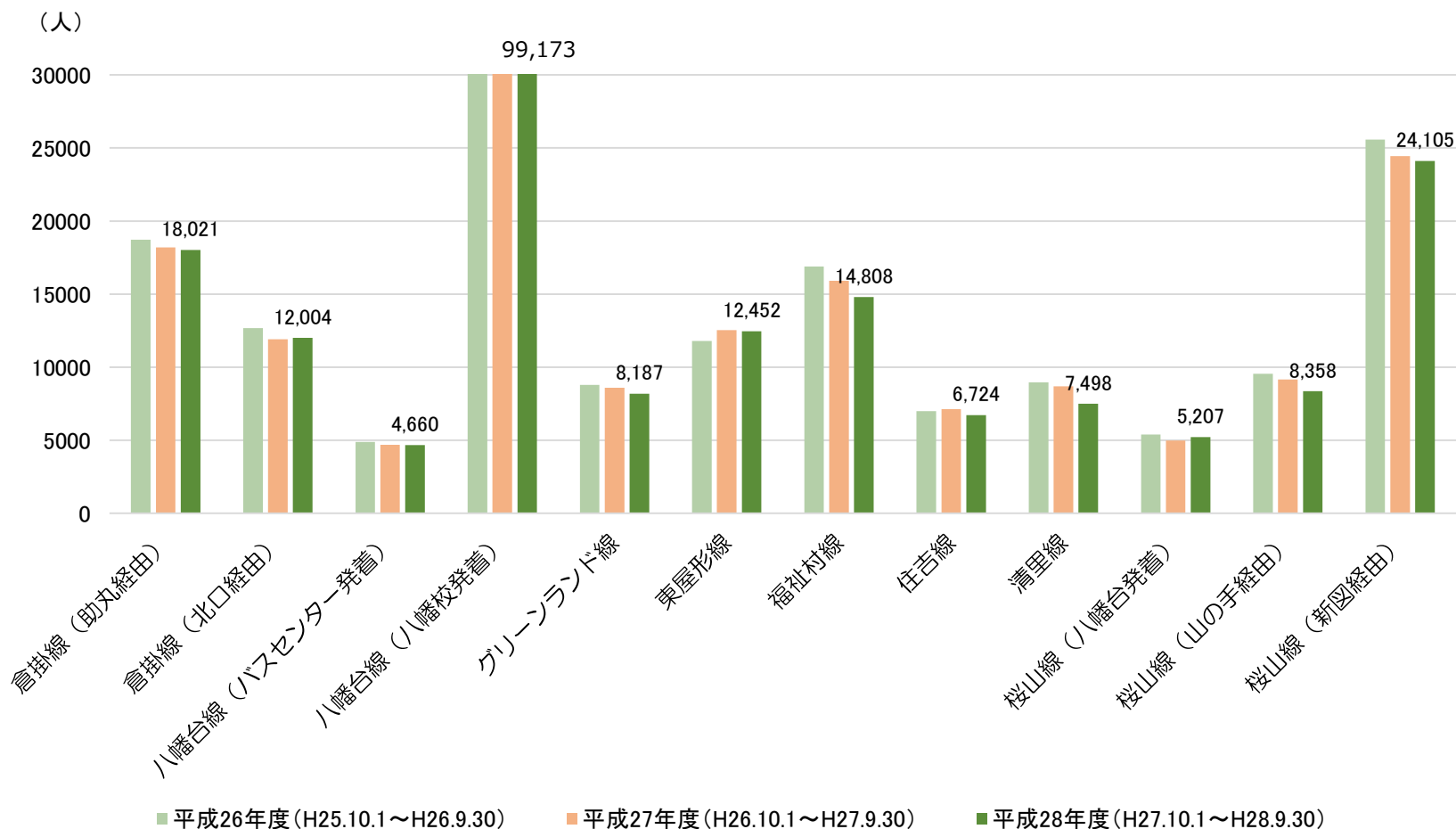
■ JR荒尾駅利用者数推移



## 2. 公共交通の概況（2）

### 路線バスの路線ごとの利用状況

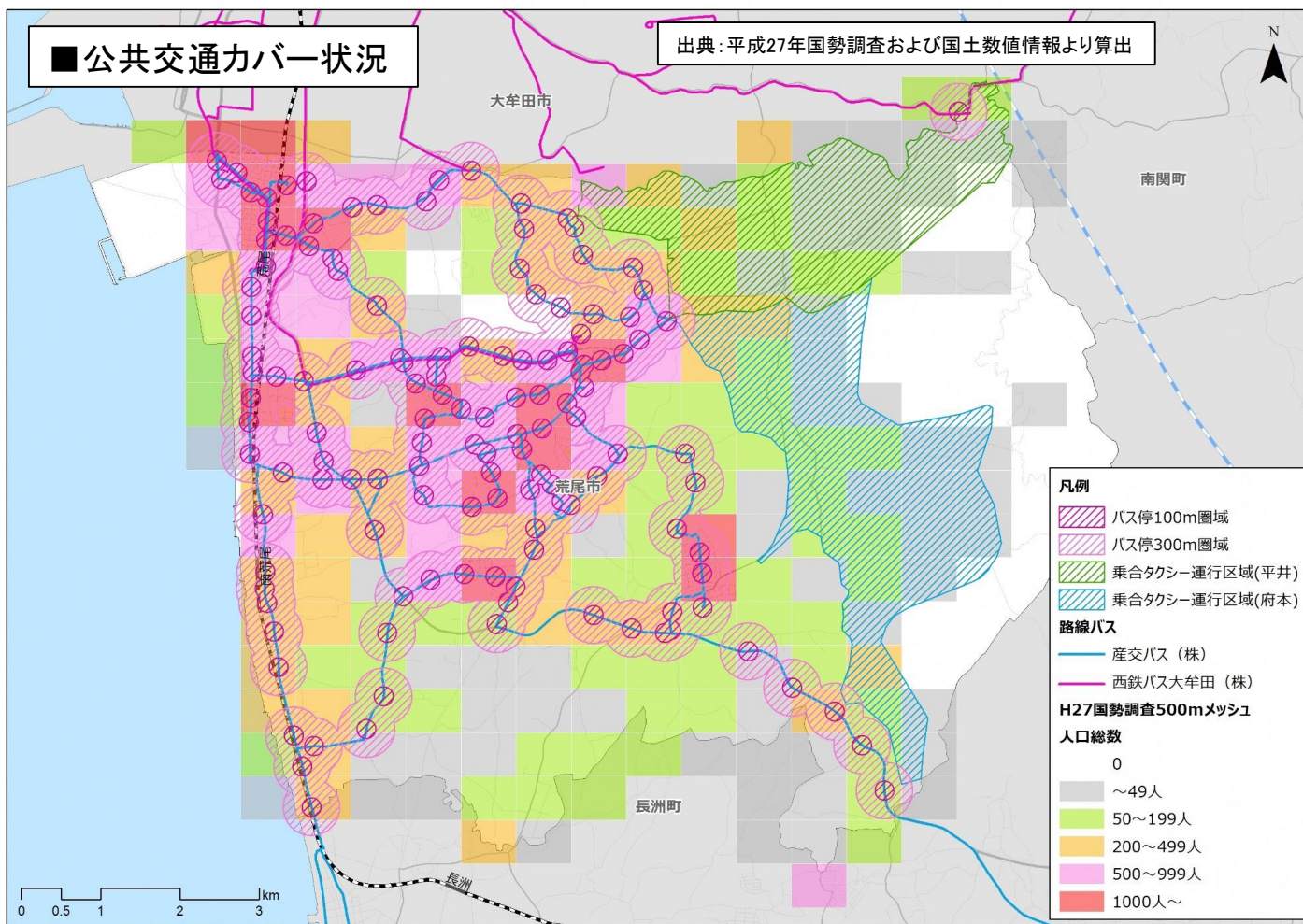
- 全体的に減少傾向であるが、路線や年度によっては利用者数が増加しているものもある。



## 2. 公共交通の概況（3）

### 公共交通アクセス環境

- 人口集積地にはほぼ網羅的に路線バスが運行されており、バス停から300m圏域※内の人口カバー率は79%に達する。  
※国土交通省において、バス停までの徒歩圏とされている距離。乗合タクシー運行区域を含む。



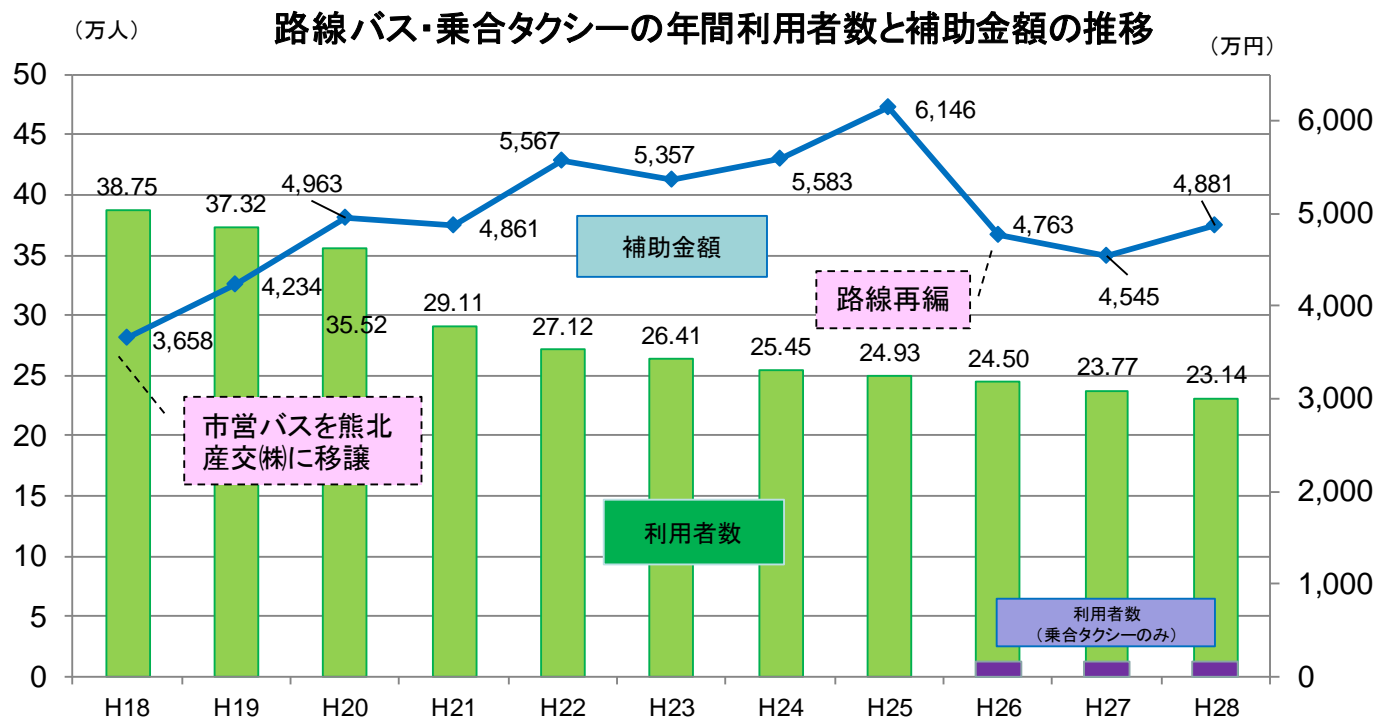
### ■ 公共交通カバー率

	区域内		交通空白
	人口 (人)	カバー率	人口 (人)
300m圏域	46,913	79%	12,160

## 2. 公共交通の概況（4）

### 公共交通に対する財政負担状況

- 路線バスの利用者数は年々減少傾向にあり、それに合わせて補助金額は増加、平成25年度には約6,000万円に達した。
- 平成25年10月に実施したバス路線の再編や乗合タクシーの導入により、ピーク時に比べて補助金額を約1,000万円削減し、現在は5,000万円弱で推移している。

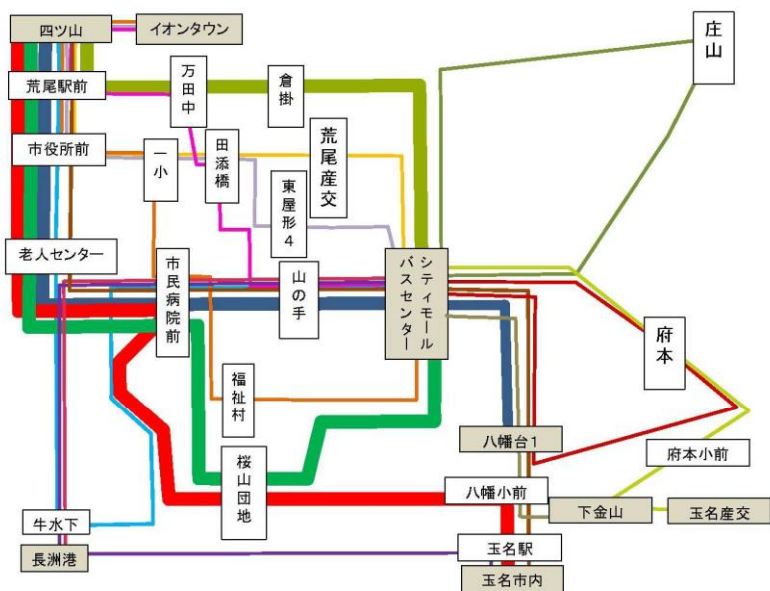


# 3. 公共交通に関するこれまでの取組み（1）

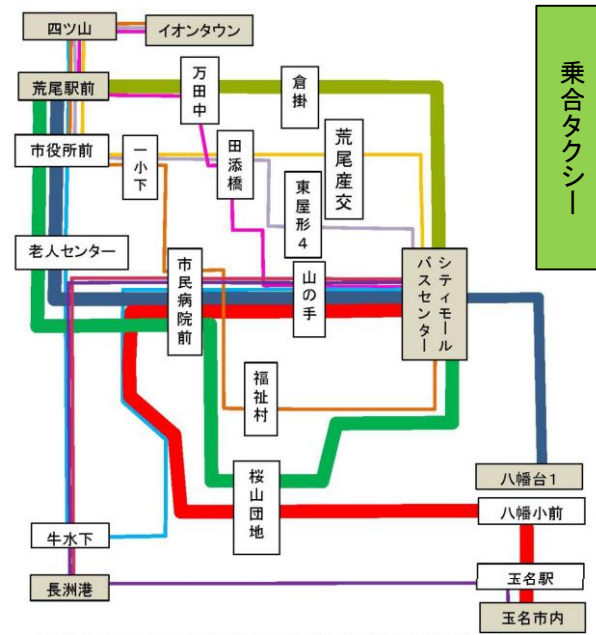
## 荒尾市地域公共交通総合連携計画に基づき実施した施策の状況

### (1) 運行の効率化

- 平成25年10月に、重複区間の見直しや運行時間の拡大など、バス路線の再編を実施した。
- 平井地区・府本地区に予約型乗合タクシーを導入した。



■ 山の手線(平日4.75回 土日祝2.75回)	■ 庄山環状線
■ 八幡台線(平日8回 土7.5回 日祝7.75回)	■ 府本循環線
■ 倉掛(オの木・助丸)線(平日8回 土日祝4回)	■ 府本産交線
■ 桜山(新園)線(平日11回 土日祝6回)	■ 下金山線(バスセンター～八幡台～下金山)
■ 荒尾玉名線(平日11.5回 土9回 日祝10回)玉東線(平日・土0.5回日祝 運行なし)	
■ 福祉村線(平日3.5回 土日祝0.5回)	
■ 住吉線(平日2.5回 土日祝2回)	
■ 東屋形線(平日4回 土日祝3回)	
■ グリーンランド線(平日2.5回 土日祝3回)	
■ 牛水清里線(平日2回 土日祝2回)	
■ 長洲港線(平日2回 土日祝運行なし)	
■ 長洲玉名線(平日3回 土日祝3回)	
■ 八幡台玉名線(平日2回 土日祝 運行なし)	



■ 主要路線 日中おおむね1時間に1本運行	■ 一般路線 おおむね朝夕に1便ずつ運行
■ 中央幹線	■ 福祉村線
■ 八幡台線	■ 住吉線
■ 倉掛(オの木・助丸)線	■ 東屋形線
■ 桜山新園線	■ グリーンランド線
■ 荒尾玉名線	■ 牛水清里線
	■ 長洲港線
	■ 長洲玉名線

# 3. 公共交通に関するこれまでの取組み（2）

## (2) 利用の促進

● 計画期間中、以下のとおり利用促進事業を実施した。

☑:実施できたもの    □:実施できなかったもの

項目	取組内容
地域公共交通活性化協議会の開催	地域公共交通活性化協議会を毎年開催し、利用者である市民、サービス提供者である交通事業者、行政等とで公共交通の現状に対する共通認識をもち、課題に対する解決策を検討した。
利用促進イベントの実施	<p>☑モビリティマネジメントの実施 ・乗り方教室の開催    ・冊子配布による市民への情報提供</p> <p>☑地域間幹線の利用促進のための広告バスの運行(平成27年度:万田坑ラッピングバス運行)</p> <p>☑市のホームページにおける地域公共交通に関する情報提供(観光スポット情報との連携)</p> <p>☑乗合タクシーに関する地域説明会や体験試乗会の実施(平成25年度)</p> <p>☑乗合タクシーの予約受付時間の変更(平成27年度)</p> <p>☑乗合タクシーの啓発チラシの配布(平成28年度)</p> <p>□バス路線沿線商業施設などとのタイアップ事業(バス利用者への特典付与の検討) →路線バス利用者増加の見込みが立たないままでの事業実施は困難であった。</p>
バス停等の環境改善	<p>☑分かりやすい路線図や時刻表の作成</p> <p>☑乗継拠点における「あしあとランプ」の導入(荒尾駅前、市民病院前、八幡校前)</p> <p>□屋根付き停留所やベンチの設置 →設置状況を調査し、台帳を作成した。</p>
乗りやすさの改善	□フリー乗降の導入検討
JRの利用促進と駅前広場のターミナル機能の充実	<p>☑福岡空港行き高速バス乗り場を荒尾駅前に移設(平成25年度)</p> <p>☑地元団体による電光掲示板の設置及びイベントの実施(平成28年度)</p>

### 3. 公共交通に関するこれまでの取組み（3）

施策	事業概要	主体	達成状況
路線バスにおける「主要路線」と「一般路線」の位置づけの明確化	路線の役割の明確化(主要路線・一般路線)	バス事業者	○
利用者のニーズに応じた路線バスにおける路線・ダイヤの見直し	乗合タクシー導入に伴う路線の廃止	バス事業者	○
	路線の発着点の変更	バス事業者	○
	重複区間の見直し	バス事業者	○
	運行間隔のばらつき改善(パターンダイヤ導入)	バス事業者	○
	乗り換え接続の改善(バスセンター・JR)	バス事業者	○
予約型乗合タクシーの導入	予約型乗合タクシーの導入	タクシー事業者	○
利用促進イベントの実施	モビリティマネジメントの実施(乗り方教室等)	荒尾市・交通事業者	○
	バス路線沿線商業施設などとのタイアップ事業	荒尾市・バス事業者・商業施設	×
	観光スポット情報の提供	荒尾市・関係団体	○
バス停等の環境整備	分かりやすい路線図や時刻表の作成	荒尾市・バス事業者	○
	屋根付き停留所やベンチの設置	荒尾市	×
乗りやすさの改善	フリー乗降の導入検討	バス事業者	×
JRの利用促進と駅前広場のターミナル機能の充実	JRの利用促進	荒尾市・JR九州	—
	福岡空港行き高速バス乗り場の移設の検討	バス事業者・荒尾市・JR九州	○

# 3. 公共交通に関するこれまでの取組み（4）

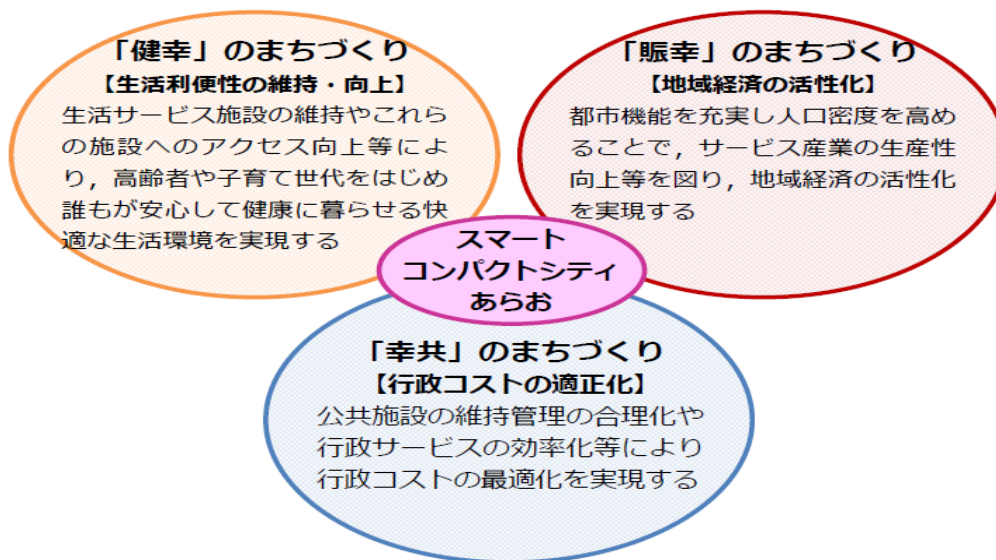
## まちづくりの方向性(荒尾市立地適正化計画)①

- 平成29年3月に策定した荒尾市立地適正化計画では、目指すべき都市像として「スマートコンパクトシティあらお」を掲げており、荒尾駅周辺と緑ヶ丘地区周辺の2つの中心拠点や大規模住宅団地を結ぶ主要な公共交通軸と、それを補完する公共道路線等による公共交通ネットワークの維持・強化により、人口減少下においても、誰もが快適に安心して暮らせる都市をつくることとしている。

### スマートコンパクトシティあらお ～人口減少から人幸増加へ～

今後加速度的に進行する人口減少・少子高齢化にしなやかに対応し、将来にわたって活力ある荒尾を維持するため、「まち」に活力を取り戻し、市民が安心して暮らせる、「しあわせ」を実感できる「人幸増加都市」を目指します

「スマートコンパクトシティあらお」を実現するための3つの施策



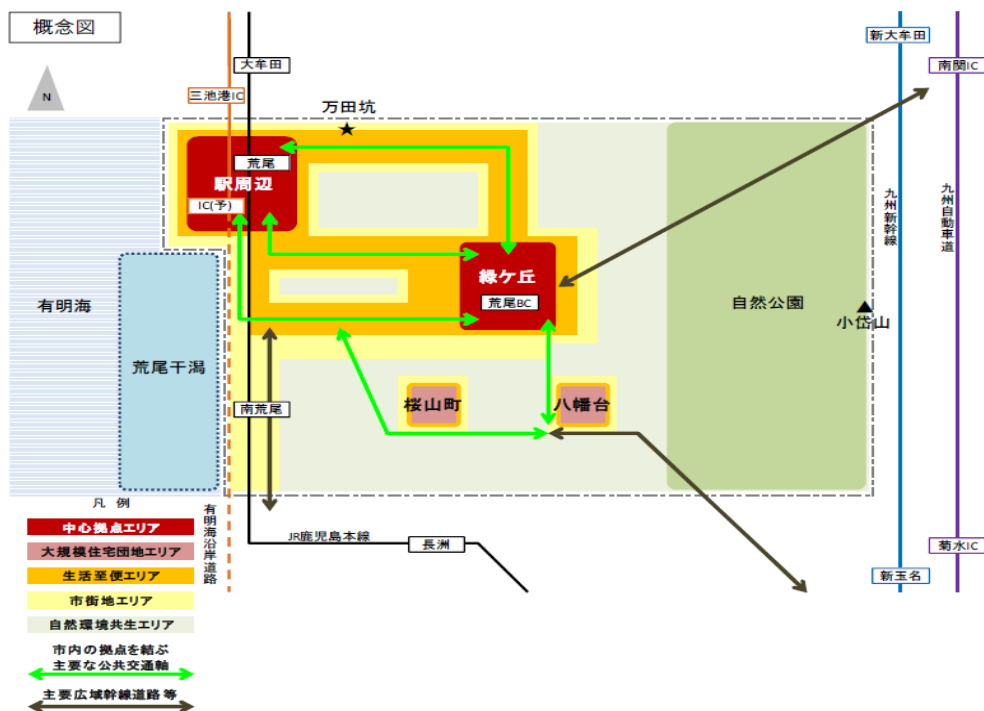


# 3. 公共交通に関するこれまでの取組み（4）

## まちづくりの方向性(荒尾市立地適正化計画)②

- 日常生活の圏域を超えて広域利用される高次都市機能や生活関連機能の立地集積を図る地域として、中心拠点である「荒尾駅周辺」及び「緑ヶ丘周辺」を都市機能誘導区域として設定し、最も生活利便性が高い居住地とすることとしている。
- 2つの中心拠点に加え、日常生活に密接に関連する生活関連機能が集積するエリアとして、「桜山団地周辺」と「八幡台団地周辺」を居住誘導区域とし、緩やかに居住促進を図ることとしている。

### 将来都市構造のイメージ（概念図）



#### 中心拠点の位置づけ

- 公共交通（鉄道、路線バス）、広域幹線道の結節点（市内外への移動の拠点）
- 都市を特徴づける多様な都市機能・都市活動が集積する「都市の顔」
- 高次都市機能、生活関連機能が集積する最も生活利便性が高い居住地